

## 横浜ゴムの軌跡

横浜ゴムは、1917年に「横浜護謄製造会社」として創業しました。1920年に横浜市に平沼工場を開設し、翌年には日本初のコードタイヤ「ハマタウン」の発売を開始しました。戦後は、1950年に現在の平塚製造所を開設。復興に向け多様化するニーズに応えるべく、タイヤやベルトにとどまらず多種多様な製品開発を重ね、総合ゴム製品メーカーへと成長を遂げました。100年を超える横浜ゴムの歴史は、先進的に業界をリードしてきた先駆けの歴史です。

### ラジアルタイヤの開発を開始 1956～

日本におけるラジアルタイヤの歴史は、1956年に横浜ゴムが他社に先駆けトラック・バス用のワイヤーラジアルタイヤを開発したことから始まりました(1963年、国産第1号のラジアルタイヤとして発売)。さらに、乗用車用ラジアルタイヤの開発を開始し、1964年には偏平プロファイルモールドによる試作に成功。1966年には、



他メーカーに先駆け日本のラジアルタイヤ時代を切り拓く第1号として「G.T.SPECIAL」を発売しました。

1971年 日本初の乗用車用スチールラジアルチューブレスタイヤ「G.T.スペシャル・スチール」発売

### 社会インフラや産業分野に貢献するMB事業 1952～

横浜ゴムには、タイヤ以外のMB(Multiple Business)事業でも、社会インフラや産業分野に貢献する技術や製品の開発において長い先駆けの歴史があります。工業用/自動車用ホース、コンベヤベルトなどの産業用製品、空気式防舷材/マリンホースなどの海洋商品、航空機部品など多様な製品を手掛け、さまざまな日本初、世界初を生み出してきました。



1970年 幅3.2メートルのスチールコード・コンベヤベルトが製造できるドイツ製装置を平塚製造所に導入

### 「ADVAN」走りのタイヤから 世界戦略ブランドへ 1978～

1976年、欧州で「日本の乗用車用ラジアルタイヤはウェット性能が低い」と指摘されたことを受け、横浜ゴムは純粋な技術的チャレンジから、世界最高レベルのウェット性能を備えたタイヤ「ADVAN-HF」を開発(1978年発売)。「ADVAN」の第1弾となった「ADVAN-HF」は、ドライ・ウェットグリップ性能を追求した走りのタイヤとして、日本で初めてスポーツラジアルタイヤというジャンルを切り拓くことになりました。

2005年からは、世界戦略ブランドとして「ADVAN」の使用を開始。製品ラインアップの充実や、世界の高性能車への新車装着の促進、モータースポーツを通じてのイメージアップなどを図りながら、現在「ADVAN」は横浜ゴムの「高性能」「高品質」「高技術」をアピールするグローバルブランドとなっています。



1988年 乗用車用ハイパフォーマンスタイヤ「YOKOHAMA A008P」がボルシェ社の技術承認取得



2005年「ADVAN」をグローバルフラッグシップブランドへ。「ADVAN Sport V103」を世界販売



1920年 横浜ゴム初の工場「平沼工場」完成



1952年 平塚工場(現・平塚製造所)操業開始



1961年 本社ビル「浜ゴムビルディング」竣工

1917 1920

1952

1961

## ゴルフギヤ設計に科学を持ち込んだ先駆け「PRGR」 1983～

1983年、横浜ゴムは、「PRGR」ブランドでゴルフ用品市場に参入しました。横浜ゴムが得意とするカーボンや樹脂の技術を応用し、カーボンヘッドにカーボンシャフトを採用したドライバーなど独自のゴルフギヤを次々に発売しました。ゴルフの持つ力を科学的に最大限に引き出すことで、ゴルフをもっと楽しくする横浜ゴムの「PRGR」は、登場以来、ゴルファーからの人気を集め、現在では斬新なアイデアを創出するゴルフギヤブランドとして定着しています。



## 環境時代の先駆け「低燃費タイヤ」の開発 1996～

1996年、「ADVAN」で定着した走りのヨコハマというイメージに、さらなる付加価値を創出するためのプロジェクトが始動。横浜ゴムの新たな核(DNA)となるタイヤを開発するという目標から「DNAプロジェクト」と名付けられました。DNAプロジェクトの開発キーワードは、時代に先駆けた「環境性能」。最優先のテーマは燃費の改善、CO<sub>2</sub>排出量の削減につながるタイヤの開発でした。グリップ力を低下させることなく、ころがり抵抗を低減し燃費改善につなげる。この相反する条件を両立させ誕生したのが、日本初の低燃費タイヤ「DNAシリーズ」です。



1998年 乗用車用低燃費タイヤ「DNA」シリーズ第一弾として「ES01」「ES02」発売

2001年 乗用車用低燃費タイヤ「DNA ECOS」発売

## 未来への思いやり。横浜ゴムの「CSR活動」 2007～

横浜ゴムの取り組みは、モノづくりにとどまらず、CSR活動にも広がっています。2007年から開始した「YOKOHAMA千年の杜活動」は、国内14拠点、海外では8カ国21拠点で植樹を実施し2030年までに植樹と苗木提供をあわせて130万本を目標に活動を継続しています。2016年設立した「YOKOHAMAまごころ基金」は、寄付を希望する横浜ゴムの従業員が会員となり、給与から毎月1口100円を天引きして積み立てる基金です。集まった資金は、環境保全や人権擁護などに取り組むNPO、NGOなどへの資金援助や、重大な災害への義援金として寄付しています。



2007年 YOKOHAMA千年の杜活動を開始



2016年 YOKOHAMAまごころ基金を設立



2017年 創業100周年を迎える



2016年 オランダの農機・建機用タイヤ生産販売会社「Alliance Tire Group」を子会社化



2006年 創業100周年にあたる2017年までの長期経営計画「GD100」において、「環境GD100」を指針にトップレベルの環境貢献企業を目指し、CSR経営を高度化



1996年 フィリピンにタイヤ生産販売会社「Yokohama Tire Philippines, Inc.」設立



1986年 茨城県に総合タイヤテストコース「D- PARC」完成



1974年 茨城工場操業開始

